

目 次

提言の要約	1
はじめに	2
第1章 現状と問題点	2
1 地域活力の低下	2
(1) 少子高齢化の動向と将来推計人口	2
(2) 地域コミュニティの動向	3
2. 社会保障費の増加	4
3. 担い手不足	6
(1) 要支援・要介護者の増加	6
(2) 共働き世帯の増加	7
4. 高齢者の孤立	8
第2章 研究課題	8
1. 地域参加による活力の創造	8
2. 支援を必要とする人を支える仕組み	9
3. 知識・経験を活かした地域の輪の構築	9
第3章 政策提言	9
高齢者人材バンクの設置	9
1. じりつ学校の開校	10
2. 地域おたすけ人の結成	12
3. 交流の場の創設	13
第4章 期待される効果	13
おわりに	14

提言の要約

いきいき高齢者が担う、わがまちの再生

現状

◎少子高齢化の進展により、高齢者人口が増加し、一人暮らし高齢者も増加している。一方、団塊の世代が定年を迎え、元気な高齢者が地域の資源として埋もれている。(高齢者人口 2,901 万人、高齢化率 22.7%)

◎自治会等への加入率が減少傾向にあり、地域コミュニティが衰退してきている。

◎社会保障費(年金・医療・福祉等)が増加する中、介護を必要とする高齢者が増加しており、その担い手となる人材が不足している。

目標

高齢者を貴重な資源として捉え、地域で援助を必要とされている方へのケア等、地域社会の諸課題の担い手として、その豊富な経験と知識を発揮していただくことにより、まちの活性化を図る。

課題と提言

★地域の課題として、住民の地域参加によりまちの活力を創造し、支援を必要とする人を支える仕組みづくりや経験・知識を生かした世代間交流を行うことが必要であり、地域の元気な高齢者の力を「**高齢者人材バンク**」に登録し、地域の再生を行うため、以下の3つの施策を提案する。

施策

じりつ学校の開校

目的：認知症の予防・改善
学習者：軽度の認知症である方、認知症予防に興味のある方
指導者：元気な高齢者
場所：公民館等既存の施設
期間：6ヶ月（1年まで）
方法：音読と計算を中心とする教材を用いる。
評価：各種の認知障害測定ツールを用いた学習前後の点数を記録し成果を考察する。

地域おたすけ人の結成

目的：日常生活の上で手助けを必要としている人と手助けできるをつなぐ。
サービス：買い物代行、話し相手、庭の草刈り、子どもの見守り等
提供体制：いずれ自分も手助けを必要とする人になることから、支えあう仕組みを地域で発展させていく。

交流の場の創設

目的：高齢者間・世代間の交流を通して地域住民の繋がりを強め、地域の活力を高める。
場所：公民館等既存の施設
講師：様々な知識や特技を有する高齢者
参加対象者：地域住民
実施方法：自治会等が主体となり、老人会等の協力を得て行う。
事業：教室や講座の開催
消費者セミナー
お食事会